



第62号

平成25年4月20日発行

宮崎市神宮西 1-49-1

TEL : (0985)32-2234

<http://www.sanyu-kai.jp/>

発行者 石川 智信

わが家のテレビのチャンネル権

石川智信

日曜日の夜、「えー、何で今変えるの?」。妻は無視してテレビのチャンネルを変える。大河テレビの画面が突然消え、絵画を扱った番組や、イタリアをはじめとした欧米の歴史溢れる街並みの映像をさがして、チャンネルを押し続ける。

我が家ではもともとNHKやBS放送以外の番組をほとんど見なかった。それもニュースがほとんどで、たまに3丁目の夕日等のノスタルジックな映画番組を見るぐらいであった。もっとも忙しすぎてテレビを見る時間がなかったため、食事時にニュースだけ見ていたというのが正しいかもしれない。だから我が家ではテレビの受信機が一台しかなくても、チャンネル争いとは無縁であった。

それが最近では、しばしばチャンネル権をめぐるさざ波が立つようになってきた。妻がニュース番組を嫌がりだしたのである。確かにニュースは明るい話題よりも暗いものが多い。殺人事件などの報道が流れるとすぐにチャンネルを変えたがる。私もそのことには同感で、黙って次の番組を見守る。ただ世界の経済や政治の話題には興味のある私にとって、特派員の報告や専門家のコメントなどを聴いている最中にいきなり、カチャカチャと画面を切り替えられるのには閉口してしまう。当初は、まだ言葉がわからず、難しい政治や経済の専門用語が理解できないための反応だと思い、我慢をしていた。しかし最近の様子を見ると、どうもそうではないようだ。番組の中身が理解できるようになったために、逆に自分の興味の対象であるかどうかで、チャンネルをカチャカチャしているだけのようである。

今の私にとって、朝食を食べながら見ているニュースが唯一、世界の変化を感じることでできる番組である。しかし午前7時40分を過ぎると、カチャリとNHKからNHK教育へと変えられてしまう。最初は、「えー、何で」と叫んでいたが、今は受け入れている。なぜなら、その時間帯は、子供向けに日本語をわかりやすく覚えさせるための番組が多いからである。真剣なまなざしでテレビの画面に映し出されるひらがなを追っている。しかし一方で楽しそうに、テレビの中の子供たちと一緒に言葉を繰り返し、身体全体を揺すりながら歌を唄っている。当初は、何で今更お母さんと一緒に世界に入らなければならないのか、悔しくて、辛かった。しかし妻と一緒に見ていると、意外に楽しく、奥深い番組が多い。日本語の持つ語感や季節感を改めて教えてもらい、小学生の頃の新しい言葉を知る喜びを思い出している。そしていつの間にか私も、妻と一緒に身体を揺すって唄っていた。はたから見たら何とも滑稽な夫婦に見えるであろうと、苦笑しながら、朝食を口に含んだまま、大声で歌い踊っている。

妻が倒れる以前は、新しい年度当初に様々な誓いや目標設定を立てていた。今は、平和で穏やかな日々を送れることに感謝する毎日である。テレビのチャンネル権争いは放棄し、これからも妻のエネルギーに引きずられてもいいと、心から感じている。



イタリア旅行紀行 その4

石川 芳佐子

イタリア旅行もいよいよ終りが
近づいて来ました。最後はミラノへ
行きました。ファッションの町ミラノとは
活気に溢れ行き交う人々は御洒落を
して颯爽と歩いていました。ネクタイや
洋服等とてもカラフルで見惚れてはう
程でした。私もちょっとショッピングも
楽しみました。夫への土産のネク
タイや私の帽子やマフラー等買いました。

「最後の晩餐」の壁画で有名なサンタ・マリア・デ
ッレ・グラツィエ教会にも行きました。ダヴィンチの「最後
の晩餐」の絵の中の13名の人々の顔の表情や
手や体の動きがとてもリアルで驚き、戸惑い、恐怖、
悲しみが伝わって来ました。

イエス・キリストの模写を
買って帰り、その絵を模写
をしました。



ヴィットリオ・エマヌエーレ2世
のガッレリア



サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会の内部

イタリア旅行の最後の日、フィレンツェの国際
見本市に行きました。イタリア中の選すぐれた
食品の見本市です。父さん御夫妻に入场券
を用意して貰いました。

いろいろなワインを試飲したり、生ハムも沢山
試食しました。初めて出会う珍しい味に驚きを感じ
ました。



パスタで作った見事な飾り



イベリコ豚で作ったソーセージと生ハム



初めて見た大きな白トリュフ



多種類のチーズの試食は最高でした



イベリコ豚の生ハムの試食は最高！でした



パルミジャーノ・レッジャーノは味が濃厚でした



楽しかった 15 日間の旅でした
ミラノの教会の前で

いろいろな色の大理石で作られたドームを見上げた時のあの感動、日本とはまるで違った店の飾り方の楽しさ、オルチャ溪谷のなだらかな丘陵地帯には放牧された羊がいたり、澄切った空気や光を感じ、まるで御伽話の中に居るような錯覚をしてしまっていた。ワインと共に食べたイタリア料理は本当に美味しかったです。イタリアは私の五感を揺ってくれました。言葉が沢山出る様になったねと言われました。またイタリアに夫と行きたいです。

かん
完



神宮西町プロフィールと文化祭

神宮西町公民館館長 平野 蕃太郎

神宮西町は町名の通り宮崎神宮境内の西側に隣接しており、古くは大宮村山口と呼ばれていました。当時の集落は現在の県護国神社境内付近に20数軒点在。紀元2600年祭（昭和15年）神宮境内拡張に伴い集落はそれより西に移転、現在の住宅地を形成する基礎となりました。昭和42年世帯数の増加で神宮町から分離独立し1丁目（南）と2丁目に区分され、当時538世帯でありました。

田畑は宅地となり、マンション、アパート、借家と街としての進展をみるようになり、地域内には高等農林専門学校（後の宮崎大学農学部）があり、学生寮とか宮大職員住宅等で活性化が進み最高の住宅地として発展していきました。宮大農学部が移転後は少し前に建てられた、県民文化ホール、博物館、そして県立図書館、芸術劇場とまさに文教の町にふさわしい住み良い環境になりました。（昭和57年6月13日 宮崎日日新聞より一部引用）

公民館の沿革

昭和47年に区民の方から西町にも公民館を建設してもらえないかとの要望があり、区会が中心となって建設の準備を進めました。用地につきましては区内の地主の日高トシさんにご相談申し上げたところ借用について快くご承諾いただき、建物については区内の山田建設と話し合っていたのですが、赤江小学校の旧校舎が不要との情報を得、市当局に問い合わせたところ、払い下げてよいということで旧校舎の調査をし、良好であることが確認され直ぐに払い下げを受け、3日間で解体輸送し建設に取り掛かりました。古材の為に古釘を抜くなど奉仕作業を皆で行ったということです。その間公民館規約、使用規定、運営に携わる委員の選出など諸事に必要なことが決まり、同年8月18日落成式が挙行されました。

ちなみに活動組織は、総務部、教養文化部、保健体育部、婦人部の4部を立ち上げ、地域に密着した行事を計画立案し、町民との融和を計りながらメイン行事である盆踊り大会、運動会、文化祭、その他子供から高齢者までが参加できるプランを推進して参りました。



今回は、その中でも教養文化部主管の文化祭を取り上げてみました。開館5年目にして（昭和52年）第1回目の文化祭を芸能部門と作品部門とに分け2日間にわたり手作りの祭として執り行われ、後々の西町の教養文化に大いに貢献したとのこと。内容的には各人の1ヶ年の家庭内での創作品、グループ学習作品、子供たちの図画・習字・工作・自由研究物など、また大人の書画・写真・盆栽、



或いは婦人部の手作り品・花・野菜類の販売コーナー等、中でもぜんざいの振舞コーナーは大人気だったようです。400 余点を展示した会場には静かな音楽が流れ、500 余の入場者で出品者も参観者も笑みを浮かべ励まし合う美しい光景は今もなお引き継がれております。平成 18 年貴院に作品出品をお願いしましたところ快くお引受け頂きまして以来今日まで連綿と続き、祭の一躍を担っていただいております。

す。割り箸で作られた三重の塔、五重の塔が記憶に残っております。35 回を数えます 24 年度の祭も万佐子先生の作品の素晴らしさに感嘆し、感動を覚えました。文化祭を通じてお互いの絆が強まり、共に伸びようとする意欲が見え、潤いと安全・安心の街づくりに貢献していけば幸いです。今回までの成果を踏まえてさらなる飛躍を祈念いたします。



祇園「この人」 # 2

例年より早く咲き、4 月を迎える頃には既に散っていた桜。入学式に桜が咲いていないというのは些か寂しいものではありますが、ここ祇園デイサービスセンターでは、遅咲きの花が咲きました。「人生の二度目の花が咲いた」そう語るのは戸敷節子さん。戸敷さんは当祇園デイサービスセンター（以下、祇園）に週に 3 日通われます。元々、美容師さんとして働いていた戸敷さんは商売柄か、人見知りせず誰とでも仲良くなり、同年代のお友達もすぐに出来ます。また、誰よりも早く職員の名前や特徴を覚え、朝一番「〇〇さん、おはようございます」と挨拶して下さいます。そんな戸敷さんは、毎週木曜日、職員、利用者さん達にオヤツを作って下さいます。クレープ、お団子、パンケーキ、チョコレート・・・お菓子屋さん顔負けのオヤツの数々！おかげで皆、毎週木曜日のオヤツが楽しみなんです！また、時には職員の前髪を切って下さったり、ビーズでプレスレットを作って下さったり。戸敷さんはこう仰いました。「仕事



も辞め、このままただ歳をとって行くだけだなーって思っていたんだけど、ここに通うようになって毎日が楽しいわ。まるで人生の二度目の花が咲いたみたい。人生何があるか分からないわね」戸敷さんという花が咲いて、その笑顔の花に皆元気をもらいます。

いつまでもその花が枯れぬよう微力ながら職員一同力添えが出来れば、と思います。

文責：祇園デイサービスセンター仁井・神毛

新人紹介

長倉 美智子（看護師）

はじめまして、2月から働かせていただいております。
みなさん優しく、あたたかく接していただいているので
とても助けられています。
どうぞ、よろしくお願いします。



本田 和子（厨房）

4年ぶりにいしかわ内科へ帰れてとてもうれしく、
厨房の皆さんと楽しく働かせて頂いています。
患者さんの喜んで食べてもらえるおいしい食事作り
に頑張っていきたいと思っています。
どうぞ、よろしくお願いします。



垣内 透（デイケア：理学療法士）

今年2月に入社し、早2ヶ月が過ぎました。
利用者様の良い所を引き出して在宅生活につなげられる様な
セラピストになりたいと思います。
宜しくお願いします。



佐野 仁美（祇園デイサービス：介護職）

3月より祇園デイサービスの仲間としてお世話になってお
ります。
皆さんの優しさ、笑顔、あたたかさにふれあえるこの場所
が大好きです。
初心を忘れずに1日、1日頑張っていきますので、よろしく
お願い致します。



森原 龍男（祇園デイサービス：介護職）

お世話になります。2ヶ月になりました。私に色々な事を
教えて下さる方々に感謝をしながら、私の出来る事を全て
を出しながら頑張っていきます。



「死ぬ事は、精一杯生きる事」

地域連携室 甲斐 俊二

平成25年3月28日、44歳という若さで妻が天国に召された。2年前に癌を宣告され、これまで必死に闘ってきたが、とうとう遠い世界に行ってしまった。

2年の闘病生活の間、「妻が亡くなれば一人になるんだな」と時々思う事はあったが、実際遺影の前に座ると、「本当に一人になってしまった」という寂しさとも虚しさともわからないような思いがこみ上げてくる。「心にぽっかりと穴が開いたようだ」という言葉を聞くことがあったが、まさに今の私の心境そのものだと思う。葬儀が終わって約3週間が過ぎようとしているが、妻を亡くしたことの寂しさや辛さをまだ引きずっているように思う。というよりも、日に日にその思いが増してきているようにさえ感じる。また、今は毎日のように、「あの時、こうしてあげればよかった。」とか「もっといろいろな話を聞いてあげればよかった。」と後悔の念が次から次へと湧いてきて、本当に大切な人を失ってしまったのだと骨身に應えてならない。

そんな思いの中で、最近「死ぬこと」について考えてみた。いままでに「死は怖いことではない。」とか「死は悪いことではない。」など、著名な先生方が言われた事を聞いたことがあったが、その時は「そうだな」と漠然と思っていた。ただ、今回妻が亡くなって本当にそうなのかと考えてみた。「死ぬことが悪いことで無い」のであれば、自ら命を絶つことも悪いことではないということになってしまうが、それは違うはずだ。

では、同じ「死」なのに何が違うのだろうか。それはきっと「死ぬまでに精一杯生きたかどうか」ということが違うのではないだろうか。人生80年、90年生きる方もいれば、私の妻の様に40数年で人生が終わる場合もある。何年生きたかではなく、亡くなるまでに精一杯生きたか、一生懸命生きたかが大切なのではないかと思うようになった。妻は、2年間 病と闘いながら必死に生きていた。病気が進行し、やっと立っている状態になっても、朝早く起きて子供達の弁当を作り、学校に送りだしていた。その時出来る事を精一杯行っていた。だから最後を迎えた時、穏やかに、まるで眠っているような、そして微笑んでいるような顔をしていた。

その時の表情が、今の私の中では唯一の救いになっている。

「死ぬこととは、精一杯生きる事」と彼女が身をもって教えてくれたように思えてならない。これから、色々なことがあるだろうが、とにかく今出来る事を精一杯やる、一生懸命にやる、ありふれているが本当に大切なことだと改めて噛みしめている。

今はまだ、妻の死について全てを受け入れられないが、彼女の一生懸命に生きた姿を思い出すたびに、少しずつ前に進める様な気がしている。

最後に、「自宅で、家族みんなと一緒に最後までいる事」が妻の最後の願いであり、当院の院長をはじめ、訪問看護師、同僚のおかげで、最後まで自宅で家族と一緒に過ごすことができた。この場をかりて、改めて深謝申し上げたい。

【編集後記】

今年は、例年になく温かい春で、桜も数週間早く散ってしまいました。いつもは、入学式のシーズンに桜の花びらが舞い踊る光景を目にしていたましたが、何か拍子抜けしたような感じを受けます。地球温暖化の影響かもしれませんが、少し寂しい感じを受けたのは、私達だけでは無かったと思います。

